

Ⅱ 選考尺度の多元化

○ ボランティア活動、教育実習等様々な社会体験の評価

豊かな経験や、教員としての意欲、使命感を評価するため、多くの県市においてクラブ活動・ボランティア活動の経験や教育実習の成績等を把握したり、面接において聴取したりしている。

1. ボランティア活動及びクラブ活動の実績について、志願書等に記載させている、あるいは面接で聴取している県市

下線は17年度採用選考試験において導入した県市

57 県市 前年度同数	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市
--------------------	--

2. 教育実習の様子を面接で聴取している県市

29 県市 前年度同数	北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、 <u>茨城県</u> 、 <u>埼玉県</u> 、千葉県、神奈川県、富山県、石川県、福井県、静岡県、滋賀県、京都府、 <u>兵庫県</u> 、奈良県、和歌山県、岡山県、 <u>徳島県</u> 、香川県、愛媛県、福岡県、大分県、鹿児島県、札幌市、千葉市、川崎市、横浜市
--------------------	--

3. 得意分野・重点履修分野について、志願書等に記載させている、あるいは面接で聴取している県市。

50 県市 前年度 45 県市	北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、 <u>長野県</u> 、岐阜県、静岡県、愛知県、 <u>三重県</u> 、京都府、大阪府、 <u>兵庫県</u> 、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、 <u>徳島県</u> 、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、札幌市、 <u>さいたま市</u> 、千葉市、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市
---------------------------	---

4. 人物証明書や推薦状等を提出させている県市（社会人等一部の受験者のみとしている場合も含む。）

8 県市 前年度同数	福島県、埼玉県、新潟県、香川県、愛媛県、熊本県、さいたま市、福岡市
-------------------	-----------------------------------

○ 特定の資格や経歴等を持つことによる試験免除

平成17年度選考試験において、特定の資格や経歴等を持つ者に対して試験の一部免除等を実施している県市は、37県市（前年度36県市）である。

そのうち、英語の資格による免除は、32県市（前年度31県市）、情報処理に係る資格による免除は、10県市（前年度12県市）で実施している。このほかにも、スポーツ・芸術での技能や実績、その他特定の資格を保有する者について免除を実施する県市がある。

下線は17年度採用選考試験において導入した県市

特定の資格や経歴を持つ者に対しての試験の一部免除	37県市 前年度 36県市	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、福井県、三重県、滋賀県、京都府、 <u>和歌山県</u> 、鳥取県、岡山県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、 <u>高知県</u> 、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、札幌市、仙台市、千葉市、川崎市、名古屋市、京都市、北九州市、福岡市
--------------------------	---------------------	--

【内訳】

英語の資格による一部試験免除	32県市 前年度 31県市	北海道、宮城県、秋田県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、福井県、三重県、滋賀県、京都府、 <u>和歌山県</u> 、岡山県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、 <u>高知県</u> 、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、札幌市、仙台市、千葉市、川崎市、名古屋市、北九州市、福岡市
情報処理に係る資格による一部試験免除	10県市 前年度 12県市	北海道、宮城県、秋田県、埼玉県、三重県、熊本県、大分県、鹿児島県、札幌市、仙台市
スポーツ・芸術での技能や実績による一部試験免除	8県市 前年度 6県市	栃木県、神奈川県、福井県、 <u>和歌山県</u> 、 <u>愛媛県</u> 、長崎県、鹿児島県、名古屋市 ※ 特別選考を実施している県市は、P57を参照。
現職教員として勤務又は教職経験を有することによる一部試験免除	17県市 前年度 13県市	青森県、岩手県、秋田県、 <u>千葉県</u> 、東京都、神奈川県、福井県、 <u>京都府</u> 、 <u>和歌山県</u> 、福岡県、 <u>長崎県</u> 、 <u>千葉市</u> 、川崎市、名古屋市、京都市、北九州市、福岡市 ※ 特別選考を実施している県市は、P57を参照。
前年度合格者の一部試験免除	4県市 前年度 同数	宮城県、東京都、鳥取県、仙台市
その他		北海道・札幌市：簿記に係る資格による一部試験免除 秋田県：外国語能力（中国語、韓国朝鮮語、ロシア語）による一部試験免除 特定の資格（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）による一部試験免除 東京都：大学から推薦を受けた者についての一部試験免除 三重県：簿記等に係る資格による一部試験免除 京都市：前年度第1次試験合格者の一部試験免除

【1 北海道・札幌市】

① 英語の資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門検査（I）及び第2次試験の実技検査を免除する。

- i. 実用英語技能検定（（財）日本英語検定協会、以下略）1級又は準1級合格者
 - ii. 国連英検（（財）国際連合協会、以下略）特A級又はA級合格者
 - iii. TOEFL（（財）国際教育交換協議会、以下略）550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
 - iv. TOEIC（（財）国際ビジネスコミュニケーション協会、以下略）730点以上取得者
- ※ ii・iiiともに、平成14年7月5日以降に受験した者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	57	56	71	78	92	131	167	102
	採用者数	25	21	25	32	37	35	51	31
高等学校	免除者数	58	94	139	121	147	155	165	116
	採用者数	24	44	38	22	35	9	28	10
盲・聾・ 養護学校	免除者数	3	1	0	3	7	4	8	4
	採用者数	3	1	0	2	4	1	2	2

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

高等学校及び盲・聾・養護学校の工業及び商業受験者で、情報処理技術者試験（（財）日本情報処理開発協会、以下略）基本情報技術者試験（第2種情報処理技術者試験）合格者、又はこれと同等以上の資格取得者は、第1次試験の専門検査（I）を免除する。

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	2	4	4	2	16	18	18	19
	採用者数	0	0	1	0	3	3	5	2
盲・聾・ 養護学校	免除者数	0	0	0	0	0	2	1	0
	採用者数	0	0	0	0	0	1	0	0

③ 簿記に係る資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

高等学校及び盲・聾・養護学校の商業受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門検査（I）を免除する。

- i. 日商簿記検定1級（日本商工会議所、以下略）合格者
- ii. 全経簿記検定上級（全国経理学校協会、以下略）合格者
- iii. 税理士試験の財務諸表論又は簿記論科目合格者
- iv. 公認会計士又は税理士の資格取得者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	8	15	15	16	5	4	5	7
	採用者数	7	4	3	4	1	1	0	0
盲・聾・ 養護学校	免除者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0

【2 青森県】

○ 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（従来より）

現に青森県公立学校に勤務している教諭及び養護教諭については、第1次試験の一般・教職教養試験及び適性検査を免除する。

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小 学 校	免除者数	0	1	2	1	0	0	0	1
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0
中 学 校	免除者数	1	0	1	0	0	0	0	0
	採用者数	1	0	0	0	0	0	0	0
高 等 学 校	免除者数	16	12	7	9	12	9	5	4
	採用者数	2	1	0	0	1	0	0	0
盲・聾・ 養護学校	免除者数	1	0	0	0	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0

【3 岩手県】

○ 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（従来より）

高等学校教諭等の受験者で、現に岩手県公立小・中学校に採用されている者、及び小・中学校教諭等の受験者で、現に岩手県公立高等学校に採用されている者は、第1次試験の論文試験及び教職専門科目試験を免除する。

ただし、岩手県の公立小学校、中学校又は高等学校に採用後、平成17年3月31日までに満3年に満たない者は、受験することができない。

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小 学 校	免除者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0
中 学 校	免除者数	0	0	0	1	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	1	0	0	0	0
高 等 学 校	免除者数	4	2	2	2	2	0	3	3
	採用者数	1	0	0	0	0	0	1	0
盲・聾・ 養護学校	免除者数	2	1	0	0	0	0	0	0
	採用者数	1	0	0	0	0	0	0	0

【4 宮城県・仙台市】

① 英語の資格による一部試験免除（平成14年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教養試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOFEL590点以上取得者（コンピューター方式では243点以上）
- iii. TOEIC880点以上取得者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
中 学 校	免除者数	0	3	2	2
	採用者数	0	0	0	1
高 等 学 校	免除者数	1	4	12	20
	採用者数	0	2	3	6

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成15年度試験より）

高等学校の工業の専門分野で選択問題の科目「電気・電子」受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教養試験を免除する。

- i. 第1種情報処理技術者試験合格者
- ii. ソフトウェア開発技術者試験合格者

※ これらと同等以上の資格取得者

(実績)

	15年度	16年度	17年度
免除者数	0	0	0
採用者数	0	0	0

③ 前年度合格者の一部試験免除（平成12年度試験より）

16年度の採用候補者名簿B掲載者で採用の機会がなかった者は、同一校種・教科（科目）を受験する場合に限り、第1次試験を免除する（自己都合辞退者を除く）。

(実績)

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	※ 22	※ 27	※ 2	※ 6	0	0
採用者数	9	19	2	4	0	0

(注) 免除者の中で出願した者の数。

【5 秋田県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成15年度試験より）

中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験のうち英会話面接を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級又は準1級合格者
- ii. TOFEL580点以上取得者（コンピューター方式では237点以上）
- iii. TOEIC860点以上取得者

※ いずれも、平成12年以降の取得者

(実績)

		15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	1	2	3
	採用者数	1	1	0
高等学校	免除者数	10	13	13
	採用者数	8	6	5
盲・聾・養護学校	免除者数	0	0	0
	採用者数	0	0	0

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成14年度試験より）

小学校、中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校教諭の受験者で、以下の該当者は総合教養（教職教養・時事問題）試験を免除し、作文を課す。

- i. 一般選考と同じ受験資格（年齢条件を除く）を有する昭和30年4月2日から昭和40年4月1日までに生まれた者（満40歳以上50歳未満）
- ii. 高等学校の受験者で、第1種情報処理技術者試験合格者、ソフトウェア開発技術者試験合格者、又はこれらと同等以上の資格取得者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0
中学校	免除者数	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0
高等学校	免除者数	1	2	0	0
	採用者数	1	1	0	0
盲・聾・養護学校	免除者数	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0

③ 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成8年度試験より）

小学校、中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校教諭の受験者で、以下の該当者は総合教養（教職教養・時事問題）試験を免除し、作文を課す。

- i. 一般選考と同じ受験資格（年齢条件を除く）を有する昭和30年4月2日から昭和40年4月1日までに生まれた者（満40歳以上50歳未満）
- ii. 現に県外で教諭の身分を有する者

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	4	2	2	0	0	0	0	0
	採用者数	0	0	1	0	0	0	0	0
中学校	免除者数	0	0	0	1	1	0	0	0
	採用者数	0	0	0	1	0	0	0	0
高等学校	免除者数	2	1	2	2	1	1	0	4
	採用者数	0	0	0	0	0	1	0	1
盲・聾・養護学校	免除者数	0	0	0	0	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0

④ 外国語能力（中国語、韓国朝鮮語、ロシア語）による一部試験免除（平成14年度試験より）

高等学校教諭の受験者で、以下の該当者は総合教養（教職教養・時事問題）試験を免除し、作文を課す。

- i. 一般選考と同じ受験資格（年齢条件を除く）を有する昭和30年4月2日から昭和40年4月1日までに生まれた者（満40歳以上50歳未満）
- ii. 中国語、韓国朝鮮語、ロシア語の免許あるいは教授能力を有する者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0

⑤ 特定の資格（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）による一部試験免除（平成14年度試験より）

盲・聾・養護学校教諭の受験者で、以下の該当者は総合教養（教職教養・時事問題）試験を免除し、作文を課す。

- i. 一般選考と同じ受験資格（年齢条件を除く）を有する昭和30年4月2日から昭和40年4月1日までに生まれた者（満40歳以上50歳未満）
- ii. 盲・聾・養護学校の受験者で、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士の有資格者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
盲・聾・養護学校	免除者数	0	0	0	0
	採用者数	0	0	0	0

【6 栃木県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成16年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の英語の専門科目を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上（コンピューター方式では250点以上）取得者
- iii. TOEIC900点以上取得者

（実績）

		16年度	17年度
中学校	免除者数	3	0
	採用者数	3	0
高等学校	免除者数	12	7
	採用者数	5	6

② スポーツの実績による一部試験免除（平成13年度試験より）

中学校及び高等学校の保健体育受験者で、スポーツの世界大会レベルの競技会に日本代表として出場した者、及び全国的規模の大会において特に優秀な成績を収めた者は、第1次試験の保健体育の専門科目及び実技試験を免除する。

「世界大会レベルの競技会」：オリンピック大会、アジア大会、世界選手権大会等、競技的内容をもつ世界的レベルのスポーツ競技会

「全国的規模の大会において特に優秀な成績を収めた者」：文部科学省、（財）日本体育協会又はその加盟団体の主催する全国的規模を有する大会で優勝もしくはそれに準ずる成績を収めた者。ただし、学生のみを対象とした大会は除く。

（実績）

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	10	4	3	2	3
採用者数	2	0	0	0	1

（採用者の内訳）

平成13年度

高等学校（保健体育） 第18回アムステルダムシティマラソン優勝、'99北京国際マラソン優勝、第49回毎日国際マラソン優勝（男性）

高等学校（保健体育） 第3回アジアオセアニアカップレスリング74kg級優勝（男性）

平成17年度

中学校（保健体育） 第57回国民体育大会（夏季大会）サッカー成年男子5位

第58回国民体育大会（夏季大会）サッカー成年男子優勝（男性）

【7 群馬県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成11年度試験より。英語科教員特別選考試験）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の教科に関する科目、小論文、実技試験及び面接を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上（コンピューター方式では250点以上）取得者
- iii. TOEIC900点以上取得者

※ ii・iiiについては、平成14年7月以降の取得者

（実績）

		11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	1	2	2	7	11	3	3
	採用者数	0	2	2	6	8	1	1
高等学校	免除者数	5	6	14	12	16	8	8
	採用者数	3	2	5	6	6	2	2

【8 埼玉県】（※平成16年度まではさいたま市を含む）

- ① 英語の資格による一部試験免除（平成13年度試験より。「英語に係る有資格者特別選考試験」）
 高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験を免除する（平成16年度以降の本特別選考受験者を除く）。
 i. 実用英語技能検定1級合格者
 ii. TOEFL600点以上取得者
 iii. TOEIC895点以上取得者

（実績）

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	15	31	39	37	29
	採用者数	3	14	6	3	3

- ② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成13年度試験より。「情報処理に係る有資格者特別選考試験」）

高等学校の情報技術・商業・情報受験者で、第1種情報処理技術者試験合格者及びソフトウェア開発技術者試験合格者は第1次試験を免除する（平成16年度の本特別選考受験者を除く）。

（実績）

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	1	0	5	1	4
	採用者数	1	0	1	0	2

【9 千葉県・千葉市】

- ① 英語の資格による一部試験免除（平成16年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の一般教養試験、教職教養試験及び専門教科試験を免除し、論文及び個別面接を実施する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
 ii. TOEFL590点以上（コンピューター方式では240点以上）取得者
 iii. TOEIC860点以上取得者

（実績）

		16年度	17年度		
中学校	免除者数	9	中高共通	免除者数	34
	採用者数	3		採用者数	14
高等学校	免除者数	9			
	採用者数	1			

（注）平成17年度より中高共通枠で実施。

- ② 現職教員として勤務している・教職経験を有することによる一部試験免除（平成17年度より）

- i. 以下の該当者（満41歳未満。一般選考は満36歳未満）は、第1次試験の一般教養試験、教職教養試験及び専門教科試験を免除し、論文及び個別面接を実施する。
 ア 他都県等において、現に国公立学校教員として在職する者（正式任用者に限る）
 イ 千葉県公立学校で正規教員として5年以上勤務経験のある者
 ii. 以下の該当者（満41歳未満。一般選考は満36歳未満）は、第1次試験の一般教養試験及び教職教養試験を免除する。それ以外は一般選考と同じ。
 ア 千葉県公立学校における臨時的任用の講師として、平成15年度に勤務実績を有し、かつ過去3年度（平成13年度から平成15年度）で通算12か月以上勤務した者
 イ 千葉県公立学校において週12時間以上の千葉県又は千葉市教育委員会の非常勤講師として、平成15年度に勤務実績を有し、かつ過去3年度（平成13年度から平成15年度）で通算18か月以上勤務（臨時的任用講師を含む）した者

(実績)

	17年度
免除者数	763
採用者数	260

【10 東京都】

① 教職経験を有することによる一部試験免除（平成15年度試験より。iiについては平成17年度より。iii及びivについては平成16年度試験より）

以下の該当者は、第1次試験の一般・教職教養試験及び専門教養試験を免除し、論文（1題のみ）を実施する。

- i. 国公立学校に在職する正規任用教員（現職）で、以下の条件を全て満たす者
 - ア 受験する校種等・教科（科目等）の教諭普通免許状を現に有する者
 - イ 受験する校種等・教科（科目等）で平成16年9月30日の時点で任用されている者（休職中の者を除く）
 - ウ 平成16年3月31日現在で、国公立学校で正規任用教員の勤務実績が5年以上ある者
- ii. 東京都公立学校における正規任用教員として、5年以上の経験を有し、平成16年3月31日現在東京都正規任用教員として在職していない者。ただし、任用実績のある校種等・教科（科目等）に限る
- iii. 東京都公立学校における臨時的任用教員（産休・育休補助）として、平成13年4月1日から平成16年3月31日までの3年間で通算12か月以上の勤務成績を有する者。ただし、任用実績のある校種等・教科（科目等）に限る
- iv. 東京都公立学校における準常勤講師（週3日以上かつ12時間以上勤務）として、受験する校種等・教科（科目等）で、平成16年度及び平成16年5月1日現在任用されている者。ただし持ち時数6時間以上の教科（科目等）に限る

(実績)

		15年度	16年度	17年度
i	免除者数	60	79	69
	採用者数	16	16	21
ii	免除者数	—	—	8
	採用者数	—	—	3
iii	免除者数	—	88	89
	採用者数	—	18	41
iv	免除者数	—	313	326
	採用者数	—	33	73

② 前年度合格者等の一部試験免除（従来より。iiについては平成16年度試験より）

以下に該当し、同様の校種等・教科（科目等）で受験する者は、第1次試験を免除する。

- i. 平成16年度及び平成15年度の東京都公立学校教員採用候補者名簿の登載者
 - ii. 平成16年度及び平成15年度の東京都公立学校教員採用候補者の補欠者
- ※ いずれも、出願時までの東京都公立学校採用者及び辞退申出者を除く。なお、iは年齢超過も可

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
i	免除者数	0	4	1	0	1	0	0	4
	採用者数	0	1	0	0	0	0	0	1
ii	免除者数	—	—	—	—	—	—	158	41
	採用者数	—	—	—	—	—	—	46	8

③ 大学から推薦を受けた者についての一部試験免除（平成4年度試験より）

中学校の技術及び盲・聾・養護学校の各教科の受験者で、関係教職課程を有する大学から1名推薦を受け、書類審査の上、要件を満たした者については、第1次試験を免除する。

(実績)

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	24	18	15	23	18	28	49	73
採用者数	6	1	1	2	4	1	23	37

(注) 盲・聾・養護学校の各教科の受験者の免除については平成16年度試験より。

【11 神奈川県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成13年度試験より）

中学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の教科専門試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC780点以上取得者

(実績)

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	11	41	47	88	108
	採用者数	5	14	22	23	39
高等学校	免除者数	16	—	—	—	—
	採用者数	2	—	—	—	—

② スポーツ・芸術の実績による一部試験免除（平成14年度試験より）

中学校の音楽・美術・保健体育受験者で、当該分野において以下に該当し、その技能等が学校教育活動に活かされると神奈川県教育委員会が認める者は、第1次試験を免除する。

- i. 音楽・美術の芸術の分野において、国際的又は全国的な規模のコンクール、展覧会等で、特別優秀な実績を有する者
- ii. スポーツの分野において、国際的又は全国的規模の競技会で特別優秀な実績を有する者

(実績)

		14年度		15年度		16年度		17年度	
		スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術
中学校	免除者数	3	0	4	0	13	4	12	2
	採用者数	2	0	2	0	5	1	6	0

(採用者の内訳)

平成14年度

中学校（保健体育） レスリングアジアオセアニア選手権2位（男性）

中学校（保健体育） バスケットボール全国男子学生選抜大会準優勝（男性）

平成15年度

中学校（保健体育） ハンドボールインターカレッジ2位（男性）

中学校（保健体育） 全日本大学サッカー選手権大会2位、J R東日本カップ2001 1位（男性）

平成16年度

中学校（音楽） 全日本合唱コンクール全国大会金賞（女性）

中学校（保健体育） 全日本学生女子柔道大会団体1位（女性）

中学校（保健体育） バレーボールユニバーシアード2位（女性）

中学校（保健体育） バスケットボール日本男子学生選抜大会2位（男性）

中学校（保健体育） 東西インカレバレーボール男子王座決定戦1位（男性）

中学校（保健体育） ハンドボール高校全国大会優勝（男性）

平成17年度

中学校（保健体育） 大阪国際マラソン2位（女性）

中学校（保健体育） バスケットボールインカレ1位（女性）

- 中学校 (保健体育) 陸上やり投げインカレ1位 (男性)
- 中学校 (保健体育) サッカー全国大会1位 (男性)
- 中学校 (保健体育) 水泳国民体育大会1位 (男性)
- 中学校 (保健体育) 剣道国民体育大会1位 (男性)

③ 教職経験を有することによる一部試験免除 (平成13年度試験より)

公立学校正規教員として平成16年3月31日現在、3年以上 (休職・育児休業等の期間を除く) の経験を有する者 (受験する校種・職・教科の教職経験に限る) は、第1次試験の一般教養・教職専門試験及び教科専門試験を免除し、作文を実施する。

(実績)

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	14	24	35	36	30
	採用者数	11	11	13	11	9
中学校	免除者数	19	30	28	30	10
	採用者数	6	15	11	6	3
高等学校	免除者数	8	0	3	5	14
	採用者数	0	0	1	3	5
盲・聾・養護学校	免除者数	—	—	—	—	—
	採用者数	—	1	1	4	2

(注) 盲・聾・養護学校については受験区分を設けず、小学校等の受験者より採用する。
平成17年度は、小学校受験者より2名を採用。

【12 福井県】

① 英語の資格による一部試験免除 (平成16年度試験より)

英語受験者で、以下の該当者は第1次試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上取得者
- iii. TOEIC860点以上取得者

(実績)

	16年度	17年度
免除者数	7	17
採用者数	4	3

② スポーツ・芸術の実績による一部試験免除 (平成16年度試験より)

以下の該当者は、第1次試験を免除する。

- i. 保健体育受験者で、国際レベルの大会 (オリンピック大会、アジア大会あるいはこれに準ずる大会) に日本代表として出場した者、又は全国レベルの大会 (日本選手権あるいはこれに準ずる大会) において優秀な成績を収めた者
- ii. 音楽又は美術受験者で、国際レベルのコンクールや展覧会等で優秀な実績を収めた者、又は全国レベルのコンクールや展覧会等で極めて優秀な実績を収めた者

(実績)

	16年度	17年度
免除者数	9	14
採用者数	4	7

(採用者の内訳)

平成16年度

- 養護学校 (保健体育) 全日本大学空手道選手権大会団体組手3位 (男性)
- 高等学校 (保健体育) 全日本学生ハンドボール選手権大会優勝 (男性)
- 高等学校 (保健体育) 全日本女子選手権大会 (ウェイトリフティング) 3位 (女性)
- 高等学校 (保健体育) 全日本学生ホッケー選手権大会準優勝 (男性)

平成17年度

小学校		国民体育大会少年女子ハンドボール優勝（女性）
中学校	（保健体育）	日本陸上競技選手権大会 1,600MR 3位（男性）
中学校	（保健体育）	全日本ホッケー選手権大会優勝（男性）
高等学校	（保健体育）	全日本体操選手権団体優勝（男性）
養護学校	（保健体育）	国民体育大会高校野球準優勝（男性）
養護学校	（保健体育）	全日本学生選手権自転車競技大会タンデムスプリント優勝（男性）
養護学校	（保健体育）	サッカー U-18 日本選抜代表（男性）

③ 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成16年度試験より）

現に他の都道府県の国公立学校に勤務している教諭又は養護教諭は、第1次試験を免除する。

（実績）

	16年度	17年度
免除者数	34	29
採用者数	6	9

【13 三重県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成13年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の筆答試験（専門）を免除する。

- i. 実用英語技能検定準1級以上合格者
- ii. TOEFL 550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC 730点以上取得者

※ ii及びiiiについては、平成14年5月以降に受験した者。

（実績）

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	10	2	4	31	43
	採用者数	2	1	0	14	9
高等学校	免除者数	25	6	6	42	44
	採用者数	4	4	2	8	8

② 情報処理及び簿記等に係る資格による一部試験免除（平成14年度試験より）

高等学校の商業受験者で、以下の該当者は第1次試験の筆答試験（専門）を免除する。

- i. 日商簿記検定2級以上かつ基本情報技術者試験（又は第2種情報処理技術者試験）合格者
- ii. 公認会計士又は税理士の資格取得者

（実績）

		14年度	15年度	16年度	17年度
高等学校	免除者数	3	1	2	14
	採用者数	2	1	1	4

【14 滋賀県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成14年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は専門教科・科目試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL 550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC 780点以上取得者

※ ii及びiiiについては、平成15年7月以降の取得者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	8	7	10	14
	採用者数	3	4	5	8
高等学校	免除者数	11	12	23	21
	採用者数	3	5	3	3

【15 京都府】

① 英語の資格による一部試験免除（平成14年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教科試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC860点以上取得者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	22	11	17	2
	採用者数	2	3	4	2
高等学校	免除者数	29	27	37	20
	採用者数	2	2	4	7

(注) 高等学校採用区分のうち1名は中学校で採用（平成14年度）

② 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成17年度試験より）

他の都道府県及び指定都市の国公立学校及び京都府内の私立高等学校の正規の現職教員は、第1次試験の一般教養試験及び専門教科試験を免除する。

(実績)

		17年度
免除者数		72
採用者数		11

【16 和歌山県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成17年度試験より。）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下に該当し書類選考の結果対象となった者は、第1次試験の校種・教科専門試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上（コンピューター方式では250点以上）取得者
- iii. TOEIC860点以上取得者

※ いずれも、平成14年4月1日から平成16年3月31日までの2年間に取得した者

(実績)

		17年度
中学校	免除者数	4
	採用者数	0
高等学校	免除者数	2
	採用者数	0

② スポーツの実績による一部試験免除（平成17年度試験より。）

中学校及び高等学校の保健体育受験者で、平成11年4月1日から平成16年3月31日までの5年間に国際レベルの大会（オリンピック大会、世界選手権大会、アジア大会等）に日本代表として出場し、団体が3位以上、個人で6位以上、又は全日本選手権大会等において1位の成績を収めた者は、第1次試験の校種・教科専門試験を免除する。

（実績）

		17年度
中学校	免除者数	1
	採用者数	0
高等学校	免除者数	10
	採用者数	0

③ 教職経験を有することによる一部試験免除（平成17年度より）

小学校受験者で、和歌山県内の公立学校において、平成10年4月1日から平成16年3月31日までの6年間に通算48か月以上の期間の講師経験（そのうち24か月以上の小学校の講師経験）がある者は、第1次試験の一般教養試験及び校種・教科専門試験を免除する。

（実績）

	17年度
免除者数	94
採用者数	8

【17 鳥取県】

○ 前年度合格者の一部試験免除（従来より）

平成16年度の採用候補者名簿B登載者は、第1次試験を免除する。

（実績）

	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	39	24	81	58
採用者数	34	20	76	53

【18 岡山県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成14年度試験より。「英語の資格による特別選考」）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の筆記試験（総合教養・教科専門）を免除し、集団面接に代わり特別面接（個別面接）を実施する。

i. 実用英語技能検定1級合格者

ii. TOEFL 580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者（平成14年7月19日以降受験の者）

（実績）

		14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	2	0	3	5
	採用者数	1	0	1	2
高等学校	免除者数	14	6	10	12
	採用者数	4	2	7	2

【19 山口県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の教科専門試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC780点以上取得者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	0	0	0	0	1	4	13	13
	採用者数	0	0	0	0	0	1	5	3
高等学校	免除者数	1	0	0	4	7	15	11	25
	採用者数	1	0	0	3	3	4	2	4

【20 徳島県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成16年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の筆記試験（専門）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC816点以上取得者

（実績）

		16年度	17年度
中学校	免除者数	2	4
	採用者数	0	1
高等学校	免除者数	15	23
	採用者数	4	9

【21 香川県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成16年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教養（英語）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC850点以上取得者

※ 出願後の資格取得は認めない。

（実績）

		16年度	17年度
中学校	免除者数	4	3
	採用者数	2	0
高等学校	免除者数	8	6
	採用者数	2	3

【22 愛媛県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成16年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の英会話試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上（コンピューター方式では250点以上）取得者
- iii. TOEIC860点以上取得者

※ いずれも、平成13年4月1日以降に受験した者

(実績)

		16年度	17年度
中学校	免除者数	1	2
	採用者数	0	0
高等学校	免除者数	5	5
	採用者数	4	2

② スポーツの実績による一部試験免除（平成17年度試験より）

中学校及び高等学校の保健体育受験者で、国民体育大会において8位以内の成績を収めた者は、第1次試験の保健体育の実技試験を免除する。

(実績)

		17年度
中学校	免除者数	3
	採用者数	1
高等学校	免除者数	8
	採用者数	0

(採用者の内訳)

平成17年度

中学校 (保健体育) バスケットボール国民体育大会少年女子2位、成年女子3位(女性)

【23 高知県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成17年度試験より）

中学校（盲・聾・養護学校の中学部を含む）及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教養試験（リスニングテストを含む）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC800点以上取得者

※ ii・iiiについては、平成14年7月以降の取得者

(実績)

		17年度
中学校	免除者数	2
	採用者数	0
高等学校	免除者数	5
	採用者数	0

【24 福岡県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成7年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者のうち特に教育委員会が認める者は、第1次試験の専門教科試験（リスニングテストを含む）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC816点以上（平成12年度試験より）

※ 又は、これらと同等の資格取得者

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	13	16	19	5	4	7	7	14
	採用者数	3	5	2	2	0	0	1	2
高等学校	免除者数	76	61	85	22	37	33	26	27
	採用者数	10	12	11	6	3	3	2	2

② 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成9年度試験より）

現に小学校、中学校、高等学校及び盲・聾・養護学校の正規教員として勤務している者で、所定の証明書を提出する者（ただし、現職と同一の校種及び職、教科・科目を受験する場合に限る。この場合、中高併願はできない）のうち、特に教育委員会が認める者は、第1次試験の専門教科試験（英語の場合はリスニングテストを含む。）を免除する。

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	33	30	31	26	23	18	22	13
	採用者数	7	7	5	1	1	1	2	1
中学校	免除者数	17	15	9	11	10	12	18	6
	採用者数	1	1	1	0	1	1	1	0
高等学校	免除者数	16	14	13	17	15	18	11	6
	採用者数	1	1	1	3	1	0	2	0
養護教諭	免除者数	3	3	0	2	1	2	3	0
	採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 盲・聾・養護学校の採用については、小・中・高等学校名簿登載者より行う。

【25 長崎県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成9年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教科試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC850点以上取得者

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	1	2	0	3	1	3	3	2
	採用者数	1	1	0	3	1	2	2	0
高等学校	免除者数	6	7	5	9	9	7	9	8
	採用者数	4	4	5	3	6	2	3	4

② スポーツの実績による一部試験免除（平成11年度試験より）

中学校及び高等学校の保健体育受験者で、以下に該当する者は第1次試験を免除する。

- i. 国際レベルの大会（オリンピック大会、アジア大会等）に日本代表として出場した者
- ii. 日本選手権大会あるいはこれに準ずる大会において優秀な成績を収めた者

(実績)

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	36	23	21	25	25	22	33
採用者数	3	3	2	2	6	4	4

(採用者の内訳)

- 平成13年度 全日本学生バドミントン選手権大会優勝
全国高校バスケット選抜優勝大会準優勝
- 平成14年度 国民体育大会ソフトボール成年男子5位
USオープン卓球選手権大会女子単2位

- 平成15年度 全日本実業団陸上選手権大会（走高跳）7位
 ハンドボール日本リーグ4年連続優勝
 全日本学生ソフトテニストーナメントベスト8
 国民体育大会バスケットボール成年女子優勝
 国民体育大会シングルスカル（ボート）4位
 国民体育大会ボクシング3位
- 平成16年度 全日本学生柔道3位
 全日本学生ソフトテニス王座優勝
 全日本学生バドミントン選手権シングルス優勝
 全日本学生フェンシング選手権個人優勝
- 平成17年度 全日本学生バドミントン選手権シングルス優勝
 全日本女子学生剣道団体優勝
 全日本女子学生柔道団体3位
 全日本大学ソフトボール選手権優勝

③ 教職経験を有することによる一部試験免除（平成14年度試験より）

平成16年度において、長崎県公立小・中学校に臨時的に任用されている者（非常勤講師を含む）で、過去5年間（平成11～15年度）において、3か年度以上臨時的任用等教員を経験し、優秀な勤務成績を収めた者で、小学校の受験者については第1次試験の教職・一般教養試験及び専門教科試験を、中学校の受験者については第1次試験の教職・一般教養試験を免除する。（ただし、免除は2回までとする。）

（実績）

		14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	51	153	131	145
	採用者数	23	16	12	7
中学校	免除者数	34	86	74	77
	採用者数	10	11	6	3

【26 熊本県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門教科等試験（ヒアリングテストを含む）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC730点以上取得者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	1	3	11	7	10	14	12	24
	採用者数	1	1	7	3	5	4	4	5
高等学校	免除者数	0	10	12	22	20	15	23	25
	採用者数	0	6	4	6	2	2	5	7

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

高等学校の工業（電気電子）及び商業受験者で、第1種情報処理技術者試験合格者は第1次試験の専門教科等試験を免除する。

（実績）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	2	0	0	0	0	0	2	1
採用者数	2	0	0	0	0	0	2	0

【27 大分県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成10年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の実技（英会話）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式213点以上）取得者
- iii. TOEIC730点以上取得者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	0	2	1	1	1	1	3	13
	採用者数	0	1	1	0	1	0	2	5
高等学校	免除者数	4	7	9	14	13	13	14	32
	採用者数	3	3	1	1	3	4	3	2

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成13年度試験より）

高等学校の商業受験者で、第2種情報処理技術者又は基本情報技術者（経済産業省）以上の資格取得者は、第2次試験の実技試験を免除する。（基本情報技術者は平成15年度試験より）

（実績）

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	0	0	1	1	2
採用者数	0	0	0	0	0

【28 宮崎県】

○ 英語の資格による一部試験免除（平成9年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の教科専門試験及びリスニング試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式では213点以上）取得者
- iii. TOEIC730点以上取得者

（実績）

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	1	2	7	6	9	27	15	17
	採用者数	0	0	0	1	3	13	6	6
高等学校	免除者数	1	4	15	15	28	38	30	29
	採用者数	0	2	1	6	5	6	9	3

【29 鹿児島県】

① 英語の資格による一部試験免除（平成8年度試験より）

中学校及び高等学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の実技（英語会話）試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級及び準1級合格者（準1級は平成9年度試験より）
- ii. TOEFL550点以上（コンピューター方式213点以上）取得者（平成10年度試験より）
- iii. TOEIC730点以上取得者（平成16年度試験より）

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	6	8	8	19	16	17	13	11
	採用者数	4	5	5	9	4	6	5	7
高等学校	免除者数	14	13	23	27	22	14	21	30
	採用者数	13	9	5	8	5	8	8	9

② 情報処理に係る資格による一部試験免除（平成11年度試験より）

小学校、中学校（数学、理科、技術、家庭を除く）、高等学校（国語、地理歴史、公民、英語、保健体育、芸術）及び養護教諭の受験者で、以下の該当者は第2次試験のパソコン実技試験を免除する。（高等学校、養護教諭は14年度試験より）

i. 情報処理技術者試験又は基本情報処理技術者試験合格者

ii. 初級システムアドミニストレーター試験合格者

※ 又は、これらと同等以上の資格取得者

(実績)

		11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	0	1	1	1	0	4	1
	採用者数	0	1	1	1	0	4	1
中学校	免除者数	3	1	0	0	0	0	0
	採用者数	1	1	0	0	0	0	0
高等学校	免除者数	—	—	—	1	0	0	0
	採用者数	—	—	—	1	0	0	0

③ スポーツ・芸術の実績による一部試験免除（平成10年度試験より）

中学校及び高等学校の芸術（音楽・美術）及び保健体育受験者で、以下の該当者は第1次試験の実技試験を免除する。

i. 芸術の分野において、高等学校卒業以降、過去4年間の全国レベルのコンクールや展覧会等で入選以上の個人実績（原則として高校生対象のコンクールや展覧会は除く）のある者

ii. スポーツの分野において、高等学校卒業以降、過去3年間に出場した全国レベルの大会における実績で、原則として次の基準を満たす者。ただし、競技種目については、学校教育における指導上の効果等を考慮

（個人種目）8位以内の入賞及びそれと同等の記録等

（団体種目）4位以内で正選手として出場した者

(実績)

		10年度		11年度		12年度		13年度	
		スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術
中学校	免除者数	4	0	5	0	7	1	9	1
	採用者数	0	0	2	0	1	0	1	1
高等学校	免除者数	12	1	12	1	14	1	8	1
	採用者数	3	0	5	1	2	0	1	0
		14年度		15年度		16年度		17年度	
		スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術
中学校	免除者数	7	1	7	0	4	0	1	0
	採用者数	3	1	1	0	1	0	0	0
高等学校	免除者数	15	1	10	0	14	0	8	1
	採用者数	1	0	2	0	2	0	1	0

(採用者の内訳)

平成14年度

スポーツ（中学校）	全日本選抜選手権大会陸上砲丸投げ6位（男性）
（中学校）	全日本教職員バドミントン選手権単3位（女性）
（中学校）	全日本女子サッカー選手権大会3位（女性）

- (高等学校) ソフトテニス全日本インドア優勝、全日本女子選抜3位、
全日本ナショナルメンバー(女性)
- 芸術 (中学校・美術) 平成12年白日展入選、平成13年白日展白日賞(男性)
- 平成15年度**
- スポーツ(中学校) 平成13年国民体育大会成年男子800m6位(男性)
- (高等学校) 平成11年日本学生水球選手権優勝(副主将)(男性)
- (高等学校) 平成12年国民体育大会成年男子バスケット3位(男性)
- 平成16年度**
- スポーツ(中学校) 平成13年全日本実業団対抗陸上競技選手権大会4×100mリレー3位(男性)
- (高等学校) 平成13年全日本実業団対抗陸上競技選手権大会走高跳3位(女性)
- (高等学校) 平成14年国民体育大会サッカー4位(男性)
- 平成17年度**
- スポーツ(高等学校) 平成15年国民体育大会陸上競技(砲丸投げ)7位(女性)

【30 川崎市】

① 英語の資格による一部試験免除(平成14年度試験より)

中学校の英語受験者で、以下の該当者は第1次試験の教科専門試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL550点以上(コンピューター方式213点以上)取得者
- iii. TOEIC780点以上取得者

(実績)

		14年度	15年度	16年度	17年度
中学校	免除者数	9	10	22	31
	採用者数	4	1	3	12

② 現職教員として勤務していることによる一部試験免除(平成13年度試験より)

現に国公立学校において正規教員として、受験する校種、職、教科で5年以上勤務した経験がある者は、第1次試験の筆記試験を免除し、小論文及び個人面接を実施する。

(実績)

		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	11	11	21	5	9
	採用者数	8	5	4	0	0
中学校	免除者数	15	29	30	11	15
	採用者数	6	5	1	2	1
高等学校	免除者数	—	2	—	—	—
	採用者数	—	—	—	—	—
盲・聾・養護学校	免除者数	—	—	—	—	—
	採用者数	—	—	2	—	—
養護教諭	免除者数	—	—	—	—	1
	採用者数	—	—	2	—	0

(注)平成17年度から、盲・聾・養護学校教諭は、小・中学校教諭に含めて募集。

【31 名古屋市】

① 英語の資格による一部試験免除(平成15年度試験より)

小学校、中学校及び高等学校(英語)の受験者で、以下の該当者は第1次試験の専門試験及び第2次試験の実技試験を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL600点以上(コンピューター方式240点以上)取得者
- iii. TOEIC900点以上取得者

(実績)

		15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	0	1	1
	採用者数	0	0	0
中学校	免除者数	0	6	4
	採用者数	0	3	0
高等学校	免除者数	2	7	11
	採用者数	0	0	0

② スポーツ・芸術の実績による一部試験免除（平成15年度試験より）

以下の該当者は、第1次試験の専門試験及び実技試験を免除する。

- i. スポーツの分野において、全国的規模以上の競技会で優秀な実績を有する者（小・中学校での実績は除く）
- ii. 芸術等の分野において、全国的規模以上のコンクール・展覧会等で優秀な実績を有する者（小・中学校での実績は除く）

(実績)

		15年度		16年度		17年度	
		スポーツ	芸術	スポーツ	芸術	スポーツ	芸術
小学校	免除者数	0	2	0	3	4	2
	採用者数	0	1	0	0	1	0
中学校	免除者数	5	6	4	2	14	4
	採用者数	2	0	1	1	4	1
高等学校	免除者数	5	0	4	1	10	2
	採用者数	1	0	0	1	0	0

(採用者の内訳)

- 平成15年度** スポーツ（中学校） 日本学生陸上競技対校選手権大会女子400m優勝（女性）
（中学校） 国民体育大会バスケットボール成年女子の部優勝（女性）
（高等学校） ボブラップ国際ソフトボール選手大会優勝（男性）
芸術（小学校） そろばん日本一決定戦読上算2位（女性）
- 平成16年度** スポーツ（中学校） 全日本学生パワーリフティング選手権大会優勝（男性）
芸術（中学校） 全日本アンサンブルコンテスト金賞（女性）
（高等学校） 日展入選（男性）
- 平成17年度** スポーツ（小学校） シンガポール国際陸上競技大会三段跳び代表（女性）
（中学校） バトントワリング全日本選手権1位（女性）
（中学校） レスリング世界大会出場（女性）
（中学校） ソフトボール全国大学選手権大会優勝（女性）
（中学校） 中華台北国際陸上大会棒高跳び代表（男性）
芸術（中学校） 全国高校放送コンテスト文部大臣奨励賞（女性）

③ 教職経験等を有することによる一部試験免除（平成16年度試験より）

小学校、中学校及び養護教諭の受験者で、以下の該当者は第1次試験の総合教養試験を免除する。

- i. 名古屋市公立学校に常勤・非常勤講師として任用され、平成11年度から平成16年度（平成16年5月31日まで）において任用期間が通算2年以上ある者
- ii. 名古屋市においてトワイライトスクール・アシスタントパートナー（事業ボランティアを含む）、ふれあいフレンド、心の教室相談員、部活動外部指導者として活動し、平成11年度から平成16年度（平成16年5月31日まで）において活動期間が通算2年以上ある者

(実績)

		16年度	17年度
小学校	免除者数	41	58
	採用者数	15	25
中学校	免除者数	63	75
	採用者数	10	15
養護教諭	免除者数	5	0
	採用者数	4	0

(注) 小学校及び中学校の受験者で希望のある者より、養護学校障害児担当として3名選考する。

【32 京都市】

① 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（従来より）

高等学校教諭を受験する京都市他校種現職教諭は、第1次試験の一般・教職教養試験を免除する。また、国語・数学・社会については、中学校の該当教科教諭が高等学校の同一教科の教諭を受験する場合、第1次試験の専門試験を免除する。

(実績)

	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	4	3	4	2
採用者数	3	1	1	1

② 前年度第1次試験合格者の一部試験免除（平成16年度試験より）

平成16年度の第1次試験合格者（第2次試験受験辞退者及び内定辞退者を除く）については、第1次試験の一般・教職教養試験を免除する。

(実績)

	16年度	17年度
免除者数	34	59
採用者数	28	36

【33 北九州市】

① 英語の資格による一部試験免除（平成7年度試験より）

中学校の英語受験者で、以下に該当し、特に教育委員会が認める者は、第1次試験の専門教科試験及び実技試験（リスニングテスト）を免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式237点以上）取得者
- iii. TOEIC816点以上取得者

※ 又は、これらと同等の資格取得者

(実績)

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	1	—	4	1	2	2	2	2
採用者数	1	—	1	0	0	0	1	1

② 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成9年度試験より）

現に小学校、中学校及び養護学校（国公立学校を問わない）の正規教員として勤務している者は、第1次試験の専門教科試験を免除する（中学校英語の受験者については実技試験（リスニングテスト）も免除）。ただし、現職と同一の校種、教科、科目を受験する場合に限る。この場合併願は不可。

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	6	2	0	0	8	11	6	14
	採用者数	1	0	0	0	1	3	0	5
中学校	免除者数	4	3	3	2	4	2	4	7
	採用者数	0	0	1	0	0	1	0	2

(注) 養護学校の採用については、小・中学校の名簿登載者より行う。

【34 福岡市】

① 英語の資格による一部試験免除（平成7年度試験より）

中学校及び養護学校中学部の英語受験者で、以下に該当し、特に教育委員会が認める者は、第1次試験の専門択一試験及びリスニングテストを免除する。

- i. 実用英語技能検定1級合格者
- ii. TOEFL580点以上（コンピューター方式では237点以上）取得者
- iii. TOEIC816点以上取得者

※ 又は、これらと同等の資格取得者

(実績)

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
免除者数	1	8	3	0	1	3	3	5
採用者数	0	0	0	0	0	0	0	0

② 現職教員として勤務していることによる一部試験免除（平成9年度試験より）

現に公立小学校、中学校及び養護学校の正規教員として勤務している者で、特に教育委員会が認める者は、第1次試験の専門択一試験を免除する。ただし、現職と同一の校種及び職、教科を受験する場合に限る。

(実績)

		10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
小学校	免除者数	10	7	12	10	15	15	21	23
	採用者数	1	0	1	3	2	2	4	4
中学校	免除者数	4	6	4	0	1	1	10	12
	採用者数	2	1	1	0	0	1	0	1
盲・聾・養護学校	免除者数	—	—	—	—	—	2	6	1
	採用者数						1	5	0

(注) 平成14年度まで、盲・聾・養護学校の採用は小・中学校の名簿登載者より行っていた。